

防衛しとて是を小諸軍と殺さん事。傷ましくはらまじや。早く城を圍むを至す。
 大將をいれ徳軍を以て。残りを助命相違なり。一系首小歸らせたまひ。
 累て武器を竭しつゝ。勝たれり。信長深く大將の漸舉動
 を感佩し。戦死し玉とん事と信。初に意し贈らまじと。漢る小系恒重を
 如何さぬ命越すや。今も殺軍も常果防戦の精力も云あり。我候が命を
 たも右も罪なれ。殺軍を殺さんこと。いふも不便な候。まはしよとて命小隨ひ
 當城を圍中し。と懇懇小返言せし。本下この義を本陣へ言候と。これ小
 よつて四方の攻路。陣とては將退くめ。本下最吉舟の諸侍をう。警備と稱
 して。合せ城中の殺軍を先小まて。次第々々小歩出く。鞆英の大いふ。情
 味。我者らとて退をせり。然して後小朝倉系恒正人計の從者を。異
 審く。然と退城し。はる秀吉程く。澁川左近將山田之右衛門の二人小合

が勝を請百せ。目ましく自勝を引分て。其百余人を。最後小未せ。系恒正後を
 守護させ。府中の遺事を。送らせ。實小ま。情あり。奉止ありと感ぜぬ
 軍こそなかり。れ其後會う勝の故

繪本豊臣勲功記三編卷之五 終